

保幼小連携だより 第6号

令和5年2月6日

— 南城市保幼小連携事業 —

南城市幼児教育センター

第6回保幼小連携事業 大里北幼稚園公開保育及び合同研修会 11月24日



大里北幼稚園は5歳児(34名)の1クラスです。「就学前の幼稚園の公開保育を通して幼児教育の理解を深め小学校教育へつなぐ」ことを目的に実施。今回は令和4年度最後の合同研修会となり、市内外から多数の方が参加しておりました。大里北幼稚園の子ども達は参加者の方に声掛けしたり、ドキュメンテーションの説明をしたり、伸び伸びと遊んでいました。

保育参観の様子

「アプローチカリキュラムについて考える」～遊び込むことの大切さ～



どんなして並べようか？



ここからスタートしよう



大人の手を借りず長縄を回す



スライムを作りたいな～！



雨降り後の水たまりで！

昨日～今日～明日へと続く保育

～遊び込む中に学びが～

廃品を使って園舎裏で迷路のようなアスレチックのような遊びを展開。縄跳びで一人跳びは上手に跳べるようになりました。長縄に挑戦しています。友達を誘って外へ出て遊び出しました。長縄を回すのも子ども達だけでやっています。

いつも色水遊びを楽しんでいる子ども達。今度はスライムを作りたいと考えました。色々な草花で試すけどなかなかうまくいきません。「どうしたらヌルヌルになるのかな～」先生にも聞いてみるけどよく分からないらしい。色々試したり工夫したりしてユウナの花はヌルヌルになることを発見。「ユウナの花でヌルヌルになるよ～」と自慢気に話していました。雨上がりの水たまりで、泥んこ遊び、シーサー作りを楽しんでいます。子ども達はシーサーに興味を持ち散歩、秋の遠足、地域のシーサーに触れ、更に親子シーサー作りもあり興味は増すばかり。そこで、さくら組を守ってくれるシーサーを作りました。ひとつの目標をもち取り組む協働性。気づいたこと感じたことを言葉にして伝える。豊かな感性と表現の育ちを捉えることができます。



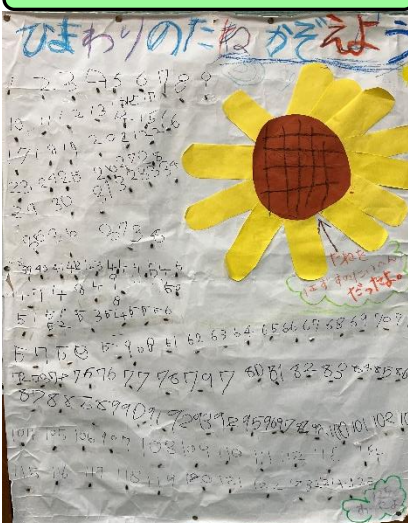
子どもと一緒に作る「保育ドキュメンテーション」

たのしかった あきの えんそく



秋の遠足にこどもの国へ行った時のことを、学級の皆でドキュメンテーションを作成しました。写真や絵、言葉で書かれたことを見返し振り返る様子が見られました。又、新たに気づきや発見があり、会話が広がります。たくさんの動物と出会った事の話をしてくれました。

ひまわりのたねをかぞえよう



「ひまわりのたねをかぞえよう」

ひまわりの種を模造紙にテープで一つずつ貼って、その上に数字を書いてありました。全部で125個の種があり粘り強く何日もかかりました。模造紙に入りきれない「もうこれでいいや」。「遊びの中に学び」が…。

さなぎのいろのかわりかた



「さなぎのいろのかわりかた」

実際に幼虫と関わり徐々に幼虫の色が変わっていく様子を絵に描き言葉で伝える。生き物との関わり多様な体験”遊びの中に学び”が…。

合同研修会の様子



学級担任
高良 千尋
大聖北幼稚園
園長
平良 正哉

参加者: 保育園・こども園 14 名、幼稚園 1 名、小学校 1 名、
その他 8 名、行政 14 名 合計 44 名



教育長のあいさつ



真剣に講話を聴く

公開保育参加者の感想

○子ども達が考え遊びを発展させて遊んでいた。保育者が子ども達自身で考え気づかせる関わりをしている場面が多く見られ、私もたくさん学びました。

○小学校につながる遊びが

多く見る事ができました。「ひまわりのかずをかぞえよう」のドキュメンテーションは、算数につながります。ひまわりやお花を大事に育てた体験から、子ども達の「〇〇したい！」という想いにつながり、その想いに対して、友達や先生方の関わりがあり、粘り強く取り組み、遊びを通しての学びにつながるなど感じました。

講話: アプローチカリキュラムを考える～遊ぶ込むことの大切さ～講師: 宮城利佳子氏

